

韓国大学の韓国語教育における言語能力評価指標導入の現状

南 潤珍

1. はじめに
2. 調査対象大学の概要
 - 2.1 延世大学
 - 2.2 ソウル大学
 - 2.3 韓国外国語大学
3. 韓国語能力評価指標の導入状況
 - 3.1 国家機関の韓国語能力評価指標
 - 3.1.1 韓国語能力試験 (TOPIK : Test of Proficiency in Korean)
 - 3.1.2 国際通用韓国語教育標準模型
 - 3.2 大学の韓国語能力評価指標
 - 3.2.1 延世大学 : 韓国語語学堂
 - 3.2.2 ソウル大学 : 韓国語教育センター
 - 3.2.3 韓国外国語大学 : 韓国語文化教育院
 - 3.3 国家機関の指標と大学設定の指標との関係
4. まとめ

1. はじめに

韓国における大学での韓国語教育は 2004 年に教育科学技術部が発表した「Study Korea Project」を転換点に量的拡大と内容の多様化を経験するようになった。「Study Korea Project」とは、2010 年までに韓国への留学生を 5 万名に増やすことを骨子とするものであるが、この事業の結果、2004 年に 16,832 名であった留学生が 2010 年には 83,842 名と目標を大きく上回る結果となった。このような留学生の増加とともにその必要性が注目されているのが韓国国内での「外国語としての韓国語教育」、特にアカデミック韓国語教育である。本稿はこのような社会的背景の下で韓国国内の 3 つの大学を中心に大学での韓国語教育がどのように行われているのかについて、特に言語能力評価指標の導入状況を中心に検討することを目的とする。大学内部の指標が外部、主に国家機関で提示されたの評価指標とどのような関係を持つのかを調べ、変化しつつある大学でのアカデミック韓国語教育の位相と方向性を検討する。

この報告は 2013 年 4 月 29 日から 5 月 8 日の間にソウル市内所在の 3 つの大学(ソウル大学: 国語国文学科、言語教育院韓国語教育センター、延世大学: 国語国文学科、韓国語学堂、韓国

外国語大学：韓国語教育学科、韓国語文化教育院）と国立国語院、世宗学堂財団を訪問し、担当者に対して行った聞き取り調査に基づいたものである。

2. 調査対象大学の概要

2 章では各大学の韓国語教育に対し留学生受け入れ状況および韓国語教育機関の現況を中心にのべる。

2.1 延世大学

延世大学 は 21 学部、21 大学院で構成される伝統のある私立大学である。在学生 37,849 名のうち留学生は 2,608 名（2012 年度）を占める。積極的に留学生を受け入れる態勢を整えているこの大学への入学に必要な韓国語能力は韓国語能力試験（TOPIK¹）5 級あるいは校内の韓国語教育機関である韓国語学堂 5 級課程修了であり、これ以上の韓国語能力をもつ留学生は内国人の一般学生と同一条件で科目を履修ことが可能である。そして、4 級以下の学生には科目履修制限があり、韓国語学堂での韓国語研修が義務付けられている。

韓国語学堂は 1959 年に設立され、韓国における韓国語教育の先駆的な存在である。2012 年度現在、受講生は 88 か国からの 7,343 名に上る。開設課程は新村キャンパスに設けられた正規課程と大勢の留学生が在籍している ^{ソンド}松島キャンパスの大学韓国語課程、そして特別課程や委託教育課程、ウェブ上で行われる韓国語教師養成課程などがある。

2.2 ソウル大学

ソウル大学は 16 学部、10 大学院で構成される国立大学である。在学生 27,978 名のうち留学生は 2,608 名（2012 年度）を占める。最高学部として多くの留学生の羨望の的であるこの大学で留学生に要求する韓国語能力は、出願時に韓国語能力試験（TOPIK）3 級以上、入学時に大学付設の韓国語教育機関である言語教育院の韓国語能力評価 5 級以上である。そして、4 級以下の人は言語教育院で韓国語研修を受けなければならない。

言語教育院韓国語教育センターは 1963 年に「語学研究所」として設立され、2011 年度現在 70 か国からの 2,784 名の受講生が在籍中である。開設課程は正規課程を始め、特別課程、委託教育課程、韓国語教師養成課程などがある。

2.3 韓国外国語大学

韓国外国語大学は 25 専攻語の外国語学部をはじめとする 19 学部、8 大学院で構成される私立大学である。在学生 19,934 名のうち留学生は 608 名（2012 年度）を占める。早い時期から韓国語教育学科が設置されたこの大学で留学生に要求する韓国語能力は、出願時に韓国語能力試

¹ TOPIK とは Test of Proficiency in Korean の略称である。詳しい内容については 3 章参照。

験 (TOPIK) 3 級以上あるいは大学付設の韓国語教育機関である韓国言語文化教育院の 4 級以上であることである韓国語文化教育院は 1974 年に設立され、現在、受講生 2,000 名のうち日本人が 30%を占める。開設課程には正規課程、短期課程、特別課程 (=委託教育課程)、そして韓国語教師養成課程などがある。

3. 韓国語能力評価指標の導入状況

3.1 国家機関の韓国語能力評価指標

韓国語能力に関して政府や国立機関で提示された評価指標としては韓国語能力試験の評価基準と国立国語院の「国際通用韓国語教育模型」がある。

3.1.1 韓国語能力試験 (TOPIK : Test of Proficiency in Korean)

韓国語能力試験は 1997 年から始まった試験であり、年 4 回、62 か国で実施されている。教育科学技術部傘下の国際教育院が主管しており、1997 年の第一回目には 2,692 名であった受験者数が 2012 年には 151,166 名という飛躍的な量的拡大をなしつつある検定試験である。試験の内容は語彙・文法、書き、聞き、読みの 4 領域に構成されているが、2014 年からは語彙・文法をなくし、その代わりに「話す」を入れる予定である。今までの試験内容が言語機能中心であり文化要素が欠落している批判はあるものの教育科学技術部で定めた外国人の大学入学資格の準拠となっているため、各大学の評価指標・目標設定の参照準拠に大きい影響を及ぼしている。

レベル及び等級は初級 (1 級・2 級)、中級 (3 級・4 級)、高級 (5 級・6 級) である。各レベルと等級別の評価基準を表 1 に記しておく。

表 1 韓国語能力試験 (TOPIK : Test of Proficiency in Korean) の評価基準

レベル	評価基準	
初級	1 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自己紹介、買い物、飲食店での注文」など生活に必要な基礎的な言語を駆使でき、「自分自身、家族、趣味、天気」のような極めて個人的且つ身近な話題について理解し、表現できる。 ● 800 語程度の基礎的な語彙と基本文法を活用した簡単な文章を構成することができる ● 簡単な日常会話を理解し、構成することができる。
	2 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 「電話や依頼」などの日常生活に必要な会話や、「郵便局、銀行」などの公共機関の利用時に必要な会話ができる ● 1,500～2,000 語程度の語彙を活用した個人的且つ身近な話題について、段落単位で理解し使用できる。 ● 公式的な状況と非公式的な状況における言語を使い分けすることができる。
中級	3 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活を営むのに支障がない程度に使いこなせ、様々な公共機関の利用や社会的な関係の維持に必要な基礎言語が駆使できる。 ● 親しくて具体的な素材は勿論、自分に親しい社会的素材を文段単位で表現するとか理解することができる。 ● 文語体と口語体の基本的な特性を理解し、使い分けすることができる。

レベル	評価基準
4 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の利用や社会的な関係の維持に必要な基礎言語が駆使でき、一般的な業務の遂行に必要な機能がある程度遂行できる。 ● 「ニュースや新聞記事」のうち簡単な内容は理解できる。一般的な社会的・抽象的な話題を比較的正確に把握し、流暢に駆使できる。 ● よく使われる慣用句や代表的な韓国文化についての知識を基に、社会・文化的な内容を理解し、駆使できる。
5 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野においての研究や業務に必要な言語をある程度理解し、駆使できる。 ● 「政治、経済、社会、文化」の全般にわたって身近でない話題に関しても理解し、駆使できる。 ● 公式的・非公式的な文脈及び文語体・口語体の文脈を適切に使い分けができる。
上 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野における研究や業務に必要な言語を比較的正確に把握し、流暢に駆使できる。 ● 「政治、経済、社会、文化」の全般にわたって身近でない話題に関しても利用し、駆使できる。 ● ネイティブレベルではないが、言語の活用や話の内容を伝達する上で問題がない。

3.1.2 国際通用韓国語教育標準模型

2000年代に入り、韓国語教育はグローバル社会化に伴い、国外の学習者が増加、そして韓国国内でも国際結婚や就業のため移住した外国人の学習者の増加を経験する。単に学習者の数が増えただけでなく、様々な言語・文化的背景をもつ学習者の多岐な学習目的に合わせて教育内容の多様化と標準化が課題となった。このような状況に応じて国立国語院で啓発されたのが「国際通用韓国語教育標準模型」である（以下「国際通用」と呼ぶ）。

「国際通用」が対象としているのは、上述のように韓国国外では韓国系移民者や外国語としての韓国語学習者及び韓国学専攻者であり、韓国国内では留学生、外国企業の駐在員、移住労働者、国際結婚家族など多様であるが、そのため、まず7等級化した標準教育課程を試みた。これは TOPIK の 6 等級とは異なるものであり、すでに教育科学技術部を含め多くの教育機関で評価基準として採用されている TOPIK の影響力を考えると、「国際通用」の普及における大きな負担を負わせる要素である。

「国際通用」で提示されている教育内容は言語機能中心という TOPIK への批判を考慮し、言語だけでなく文化的要素も積極的に取り入れている。このよう問題意識は語彙文法リストと文化要素リストを提供し、全体の総括目標に加えてテーマ別、言語スキル領域、言語知識領域、文化領域にわけた領域別目標を設定していることから確認できる。総括目標を以下の表 2 に示す。

表 2 国際通用韓国語教育標準模型の総括目標

レベル	到達目標	
初級	1 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶、自己紹介など日常的話題でコミュニケーションができる。 ● 曜日、時間、場所など基本的話題で構成された課題を解決することができる。 ● 日常生活に関する簡単な文を理解し、書くことができる。 ● 身近なものや場所と関連する語彙を理解、使うことができる。 ● 韓国語の字母の音価、音節構造、基本文のイントネーションを母語話者が分かるように発音できる。
	2 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な日常生活の韓国文化が理解できる。 ● スーパーや食堂など日常の場所での身近な話題でコミュニケーションができる。 ● 郵便局や銀行など公共の場で起こりうる状況で構成された課題を解決することができる。 ● プライベートの場での親交、問題解決などの対話を聞いて理解することができる。 ● 公共の場で使う語彙を理解し、使用することができる。 ● 複雑な音韻変化を理解し、ゆっくり、正確に発音することができる。 ● 韓国社会に対する基本的理解に基づいて生活の維持ができる。
中級	3 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活のほとんどの場面でのコミュニケーションができる。 ● 職業、恋愛、結婚など身近な社会的話題についての対話を聞いて理解できる。 ● 日常的で慣れた話題についての対話を聞いて理解できる。 ● 身近な個人的話題の文章を読み、説明を書くことができる。 ● 生活のほとんどの語彙を理解し、使用することができる。 ● 頻度の高い慣用表現を理解し、使用することができる。 ● 複雑な音韻変化を理解し、単語境界を終えた音韻変動の規則を適用し、正確な発音ができる。 ● 日常生活に現れた伝統文化を理解し、特殊な文化的要素が理解できる。
	4 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 公的な状況でのコミュニケーションができる。 ● 職場生活など基本的な社会関係に必要な課題の解決ができる。 ● 業務や公的関係で行われる対話を聞いて理解できる。 ● 職業、恋愛、結婚など身近な社会的話題についての文章を読み、書くことができる。 ● 日常生活であまり使われてない語彙を理解し、使用することができる。 ● 頻度の高い慣用表現、四字熟語、諺などを理解し、使用することができる。 ● 話し言葉と書き言葉の基本的特徴が理解できて使い分けができる。 ● 音韻変動をうまく適用し母語話者が理解できる程度の発音とイントネーションの駆使ができる。 ● フォーマルな韓国文化が理解でき、大衆文化を楽しむことができる。
上級	5 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 政治、経済、社会など社会的素材のコミュニケーションができる。 ● 自分の専門分野での研究や業務に必要な言語機能の遂行がある程度できる。 ● 慣用表現、四字熟語、諺、時事用語、専門用語を理解し、使用することができる。 ● 文法の微妙な違いを理解し比較的流暢に話すことができる。 ● イントネーションに現れた意味の違いに気づき、状況に合わせて語調を変えてはなすことができる。 ● 韓国文化に反映された韓国人の価値観や思考方式が理解できる。 ● 韓国文化と自分の文化を比較し文化の多様性を理解する。

レベル	到達目標
6 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的、抽象的テーマのコミュニケーションに参加し自分の意思を表現することができる。 ● 自分の専門分野や馴染みのない社会的素材の文章や発表、討論、対談などを理解することができる。 ● 例示、比喩など様々な手法を利用して幅広いテーマについて文章を書くことができる。 ● 難しい四字熟語、諺、時事用語などほとんどの語彙を理解し、使用することができる。 ● 代表的な方言を聞いて理解することができる。 ● 状況や文脈によって文法の使い分けができる。 ● 成就文化、制度、生活に対する理解に基づき社会、文化の理解ができる。
最上 7 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 政治、経済、社会、文化など幅広いテーマについてはっきり、詳しく自分の考えを表現できる。 ● 意見の調整、協商など複雑な課題の解決ができる。 ● 発表、討論、業務報告、事業計画など自分の専門の学術活動や業務ができる。 ● ほとんどミスなく文法使用ができる。 ● 語感の違いを考慮しコンテキストに合った語彙選択ができる。 ● 母語話者に近い発音ができる。 ● 韓国の政治、経済、社会、文化、教育など様々な分野での議論を理解し評価することができる。

3.2 大学の韓国語能力評価指標

3.2.1 延世大学：韓国語語学堂

延世大学の韓国語学堂は経験と知名度で韓国語教育を牽引するという意識が高く、一般韓国語課程以外に正規課程としてアカデミック韓国語課程が開設されている唯一の韓国語教育機関である。一般課程の指標とアカデミック課程の指標をそれぞれ表3と表4に示す。

表3 延世大学韓国語学堂の一般課程の到達目標

レベル	到達目標
1 級	<ul style="list-style-type: none"> ● ハングルの字母を正確に発音することができる。 ● 日常生活に必要なコミュニケーションができる。 ● 韓国語の構文構造を習い、基本文法を習得し、助詞と語尾の正確な使用ができる。 ● 状況に合った表現を習い、簡単な注文や要請、提案ができる。 ● 肯定文・否定文を作ることができる。 ● 時制表現ができる。 ● 敬語を使うことができる。
2 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 母語の影響はあるものの比較的正確な発音とイントネーションで話すことができる。 ● 発話速度は母語ほどではないが、学んだ語彙と文型の練習を通じてある程度自然な速度で話すことができる。 ● 語彙は基本的な物事、場所、家族、日常生活のものが主となる。 ● 文法的には助詞・語尾・時制の使用で誤りがある。 ● 学習した語彙と文型を再構成し基本的意思交換ができる。

レベル	到達目標
	<ul style="list-style-type: none"> ● 制限された状況での対話ができる。
3 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 音韻変動に慣れて比較的自然的な発音で話すことができる。 ● 母語話者よりはゆっくりであるが、もどかしさを感じさせない程度の速度で話すことができる。 ● 日常生活に不便を感じないくらいの語彙を駆使することができる。 ● 相手に必要な情報を要請ことができ、相手との関係を考慮し相手の依頼を適切に断ったり意見調整することができる。 ● 母語話者の助けなしに公共事務手続きができる。 ● 日常的テーマについて自分の意見を正確に表現することができる。 ● 電話を利用して公的用事ができる。
4 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然的な発音で長い文や段落単位の話ができる。 ● 予想外の事態について話で問題解決することができる。 ● 自分の意見を具体的に表現することができて簡単な問題についての討論ができる。 ● 非日常的テーマについて説明することができる。 ● 文法的装置を用いて自分の気持ちを表現することができる。 ● 与えられたテキストを要約し、簡単な批判ができる。
5 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然的イントネーションと発音で長い文や段落単位の話ができる。 ● 様々な状況に合わせて適切な言葉を自然なスピードで流暢に話すことができる。 ● 5 級の語彙と文法的装置を用いて自分の意思を正確に表現することができる。 ● 密度のある、適切で妥当な意味の発話ができる。 ● 比較的専門的な業務の遂行に必要な表現や談話状況に相応しい発話ができる。
6 級	<ul style="list-style-type: none"> ● 教養ある母語話者に準ずる自然的イントネーションと発音で長い文や段落単位の話ができる。 ● 重みのある対話を自然なスピードで流暢に進めることができる。 ● 適切な語彙と文法的装置を用いて自分の意思を正確に表現することができる。 ● 論理的に妥当かつ意味的に密度のある対話ができる。 ● 専門的な業務の遂行に必要な様々な表現や討論、発表、インタビューなどの談話様式に相応しい発話ができる。

表 4 延世大学韓国語学堂の大学韓国語レベル別到達目標

レベル	到達目標
初級	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活に必要な基礎的言語機能を身につける。 ● 大学での基本的コミュニケーションができる。
中級 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の一般的コミュニケーションができる。 ● 大学での学業についての基礎的コミュニケーションができる。
中級 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の全般的コミュニケーションができる。 ● 大学での学業についての一般的コミュニケーションができる。
高級	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学の教養科目の受講に必要な基本的能力を身につける。 ● 大学の教養科目の受講ができる。

韓国語学堂の指標は他の機関より長い歴史を持っていて、TOPIK や国際通用韓国語教育標準

模型の参照先として位置づけられている、という認識があるという。

3.2.2 ソウル大学：韓国語教育センター

ソウル大学韓国語教育センターでは1999年にTOPIKを参照し教育課程の整備を行い、「6等級＋研究クラス」の体制を整った。そして2008年には学習時間に合わせ、各レベル別目標の詳細な記述を提示した。以下の表5で到達目標を提示する。表の1級から6級は一般韓国語教育課程であり、研究クラスはアカデミック韓国語教育課程である。

表5 ソウル大学韓国語教育センターのレベル別到達目標

レベル	到達目標
1級	<p>事前知識のない成人学習者。日常生活に必要な最小限のコミュニケーション能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を正確に読むことができる。 韓国語の基本構造を習い、短い文を理解し、使うことができる。 挨拶、自己紹介、買い物、飲食店での注文、大衆交通便の利用、電話通話、銀行の利用など生活に必要な基礎的な表現ができる。 食事や電話など日常生活の文化を体験する。
2級	<p>200時間またはそれに相当する教育を受けた成人学習者。日常生活に必要な基本的コミュニケーション能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国語の音韻規則を習い、自然な発話ができる。 接続文や拡張文を理解し、使うことができる。 家族、趣味、運動、旅行など身近な主題について聞いたり答えることができる。 敬語や間接話法を談話状況に合わせて使うことができる。 正月やサムルノリなどの韓国文化を体験する。
3級	<p>400時間あるいはそれに相当する韓国語教育を受けた成人学習者。 日常生活に必要なコミュニケーション能力を身につけ、韓国文化に接する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な生活語彙、漢字語、慣用表現を習い、日常のコミュニケーションができる。 引っ越し、旅行の計画、休日の計画、故障修理の依頼、演劇など多様なテーマの表現ができる。 韓国料理実習、文化施設見学、詩感想などを通じて韓国文化を理解する。
4級	<p>600時間あるいはそれに相当する韓国語教育を受けた成人学習者。 様々な社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけ、韓国伝統文化に接する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学業と職業に必要な言語能力を身につける。 社会、文化、歴史、小説など様々なテーマの文章を読み、話すことができる。 比較的長く自分の意見を論理的に話すことができる。 現地踏査あるいは韓国の神話、古典小説、歌などを通じて韓国伝統文化を体験する。
5級	<p>800時間あるいはそれに相当する韓国語教育を受けた成人学習者。 言葉の不自由のない生活ができるコミュニケーション能力を身につけ、韓国社会と歴史に対する幅広い知識を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野においての研究や業務に必要な言語能力を深める 「政治、経済、社会、文化」をテーマとする討論学習に参加する 様々なテーマについて論文形式の発表をし、専門的知識の習得、討論ができる

レベル	到達目標
6 級	<p>1000 時間あるいはそれに相当する韓国語教育を受けた成人学習者。 社会生活に不自由なく流暢な言葉を駆使し韓国社会と歴史に対する深い知識を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学の講義、専門業務に必要な言語活動の遂行ができる • 討論・発表など公的場面で自分の考えを論理的に表現できる • 新聞・放送など生の資料を用いて様々な言語活動ができる • 放送ドキュメンタリーを利用して韓国の歴史を習う • インターネットが自由に使える
研究クラス	<p>1200 時間あるいはそれに相当する韓国語教育を受けた成人学習者。 学業や修行に必要な言語能力を身につけ韓国社会と文化に対する理解を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学や大学院での講義、職場の業務に必要な言語活動の遂行ができる。 • 大学や大学院でのレポート作成に必要な言語能力を身につける。 • 著書、論文、インターネットを利用して必要な資料を得ることができる。 • 職場生活でよく使う様々な表現ができる。 • 様々な文章を読み、批判的に理解し、意見や感想の発表や討論ができる。 • 時事問題を扱ったメディア資料の内容を理解し自分の意見を流暢かつ正確に表現することができる。

3.2.3 韓国外国語大学：韓国語文化教育院

韓国外国語大学の韓国語文化教育院では交換留学生と正規入学を希望する学生の教育を担当しており、動機の違う学習者のニーズをどのように受容するかが課題となっている。そのため、交換留学生を中心としたコミュニケーション中心の教科課程と正規入学希望者を中心とした TOPIK 準備クラスを運営している。一般韓国語教育課程は 6 等級という TOPIK と並行したし等級化を行っているが、実際の教育内容は TOPIK よりやや高い水準で構成されている。そして 2012 年からは、大学内の通・翻訳学部と連携して、より水準の高い学生向けの個人指導中心の 7 級を運営している。一般韓国語教育課程の到達目標を表 6 に記す。

表 6 韓国外国語大学韓国語文化教育院のレベル別到達目標

レベル	到達目標
1 級	<ul style="list-style-type: none"> • 基本文法や文型を用いて基礎的「話す、聞く、読む、書く」の機能を確立する。 • 自己紹介、家族、趣味などプライベートで身近な話題と関連した基礎的な表現ができる。
2 級	<ul style="list-style-type: none"> • 安定的に複文の構成ができる。 • ロールプレイを通じて実際の場面での自然なコミュニケーションでできる。
3 級	<ul style="list-style-type: none"> • 敬語が使える。 • 母語話者との日常的会話ができる。 • 様々な場面での韓国語が駆使できる。
4 級	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な分野の多様な表現ができる。 • ニュアンスの違いを区別することができる。 • 新聞記事やメディアを活用し、より実用的かつ複雑な表現ができる。

レベル	到達目標
5 級	<ul style="list-style-type: none"> • 韓国の政治、経済、社会、文化など様々なテーマの談話を通じて話し言葉と書き言葉の区別ができる。 • フォーマル・インフォーマルな場面で言葉の使い分けができる。 • 標準語のドラマ、簡単なインタビューなどを聞いて理解する。
6 級	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の意思を論理的に伝えることができる。 • 韓国の歴史、文学、政治、経済、社会のテーマで母語話者の大学生と討論ができる。

3.3 国家機関の指標と大学設定の指標との関係

上記に述べた国家機関の指標と各大学の韓国語教育機関の教育内容及び指標との関係を、まとめると表7のようである。

表7 国家機関の指標と大学の韓国語教育との関係

項目 \ 指標	国際通用	TOPIK	延世大	ソウル大	韓国外大
レベル分け	7 等級	6 等級	6 等級	6 等級+1	6 等級+1
言語機能	話す・書く・読む・聞く	語彙文法・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く	話す・書く・読む・聞く
文化要素	明示的	なし	非明示的	非明示的	非明示的
アカデミック 韓国語	非明示的	なし	課程開設	+1 クラス	+1 クラス
参照	CEFR ACTFL TOPIK など	ACTFL JPT		TOPIK	TOPIK

4. まとめ

これまでの内容をまとめると以下のとおりである。

- 1) 大学における韓国語教育は学部ではなく、付設機関を中心に行われているが、アカデミック韓国語教育への要求が現実問題として浮き彫りになっている。
- 2) TOPIK の評価基準は大学の歴史、状況によって異なるが、TOPIK がほとんどの大学の韓国語教育課程の構成と緊密に連携し、影響を及ぼしていることは否定できない。レベル分けがほとんど6等級となっていることや内容の構成などがその例である。
- 3) 新しく提案された国際通用韓国語教育標準モデルは、すでに TOPIK と連携して定着した大学の教育課程に反映されることは容易ではない状態である。特に到達目標が7等級となっていて TOPIK とのずれが生じていることはこれからこのモデルの定着に負の要因として作用することが予想される。

4) CEFR は「国際通用」には反映されているものの直接的影響関係はみられない。韓国の韓国教育においては今の段階で通言語的参照基準という考え方には至ってないと思われる。

<参考文献一覧>

- 金重燮他 (2011) 『国際通用韓国語教育標準模型開発 2 段階報告書』, 国立国語院.
キム・ジョンスク他 (2011) 『韓国語能力試験の体制改善研究』, 教育科学技術部.
国際韓国語教育学会 (2010) 『国際通用韓国語教育標準模型開発報告書』, 国立国語院.
延世大学韓国語学堂 (2013) 『韓国語学堂年報 2013』, 延世大学韓国語学堂.

<参考サイト一覧>

- 国立国語院 <http://www.korean.go.kr>
世宗学堂財団 <http://www.sejonghakdang.org>
ソウル大学韓国語教育センター <http://lei.snu.ac.kr/klec/>
韓国外語大学韓国語文化教育院 <http://korean.ac.kr/>
韓国語能力試験 <http://www.topik.go.kr/>
延世大学韓国語学堂 <https://www.yskli.com>